

認知機能低下の方に寄添う通いの場の試行実施について

高齢化の進行に伴い、認知症高齢者が増加しており、認知機能が低下することで通いの場に参加することを躊躇するなど外出機会の減少が懸念される。こうした高齢者の孤立や閉じこもりを防止し、認知症との共生を目指して認知機能が低下しても通い続けられるような通いの場の取組みを行っている。

1 取組みの経緯

時期	項目	内容
令和3年5月	第1回地域課題ネットワーク会議	地域包括支援センターと第2層コーディネーターと市で、地域課題の整理や今後の取組みについて共有
7～8月	現状把握アンケート実施	地域介護予防教室等の既存の団体に認知症高齢者の参加状況などの現状把握アンケートを実施
10月	第2回地域課題ネットワーク会議	アンケート結果の共有、今後の取組みについて検討 団体へのアプローチ方法の検討
12月	認知症関係者連絡会、当事者・家族の会へ意見聴取	当事者・家族からの意見 「認知症の方を特別視せず、高齢になると誰もがなるため皆が学ぶ」「一緒にやっていくものであるとよい」等
12月	第3回地域課題ネットワーク会議	各団体の試行実施の意向について共有 支援方法・プログラム内容の検討
令和4年1月	試行実施について各団体へ説明	12団体へ支援プログラムの内容を説明し、試行実施への参加の打診
2月～	試行実施の開始	支援の3本柱（啓発・プログラム・専門職支援）

2 既存団体への認知症高齢者の参加状況等現状把握アンケート結果

●地域介護予防 15 団体・近所 de 元気アップトレーニング 32 団体

質問項目	回答内容
グループ内に認知機能が低下している方、または心配な方がいますか？	【教室】 いる：10 団体／いない：1 団体 【近トレ】 いる：9 団体／いない：17 団体
認知機能の低下を予防するプログラムを取り入れてみたいですか？	【教室】 取り入れたい：15 団体（100%） 【近トレ】 取り入れたい 30 団体（93.75%） 他 2 団体は「特になし」と回答
その他意見等	・近所の人声かけによる地域全体で支える仕組みを築いていきたい ・認知機能の低下の方には、丁寧な説明が必要で、多くの人の協力が必要 ・認知症に関する新しい情報を学びたい 等

●サロン 44 団体

質問項目	回答内容
サロン内に認知機能が低下している方、または心配な方がいますか？	いる：12 団体 いない：12 団体（他は不明）
どのような支援プログラムを希望しますか？	・レクリエーション：13 団体 ・専門職との相談の場：5 団体 ・講座の実施：8 団体

●当事者・家族の会、認知症関係者連絡会の意見

- ・みんなで一緒にやるだけでなく、時に見ているだけの参加もあっても良い
- ・行きたくない参加者を無理やり引っ張りださないで、行きたくない理由を聞いてほしい
- ・認知症は誰もがなる可能性がある。特別視しないでほしい
- ・教えてあげる場ではなく、一緒に考え、取り組んでいける場であるとよい

3 試行実施プログラムの内容（学識経験者に相談しながら検討）

●取り組みを実現するための“支援の3本柱”

- ①取り組み開始時に、認知機能低下者に対するノウハウレクチャー（啓発）
- ②日々の活動に取入れられる効果的な活動の提案・提供（プログラム）
- ③専門職の定期的な訪問による相談支援（専門職の支援）

●コンセプト（地域介護予防教室・近所 de 元気アップトレーニング編）

今、活動している通いの場のコンセプトに以下①～③をプラス

- ①月1回以上は、認知機能に働きかけるプログラムを取り入れる
- ②住民主体の活動に対して、専門職からのサポートを受けられる場
- ③認知機能が低下しても、していなくても、皆がほっとできる場



《目指す姿》

- ①参加者全員が主役の場
- ②一人ひとりに役割のある場

《効果》

- ①認知機能の低下を緩やかにする
- ②支え合える仲間をつくることできる
- ③役割を持ち、成功体験をつめる
- ④自発的に社会参加を続けられる

4 今後のスケジュール

日程	内容
令和4年3月	一般介護予防事業評価委員会へ取り組みを報告
3月～	試行実施を継続
5月～	試行事業の評価（世話人・参加者へアンケート調査実施）
6～7月	事業の見直し
9月	事業全体の評価（世話人・参加者へアンケート調査実施）
10月～	対象団体の拡大・事業の本格実施